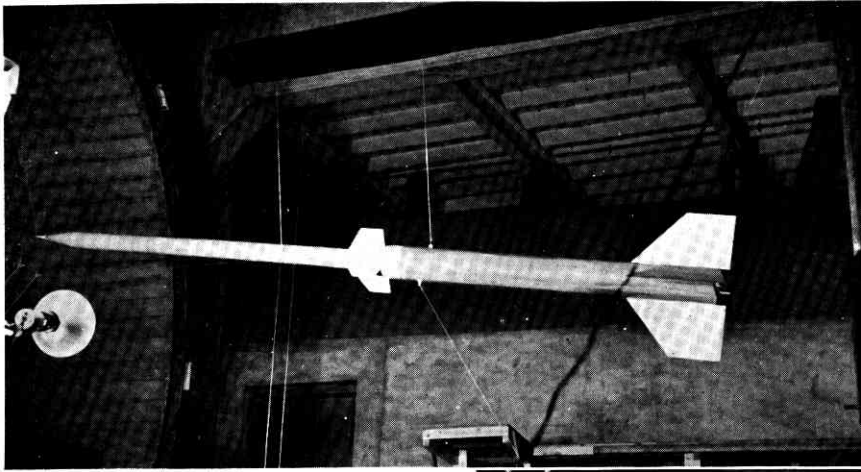


風洞試験

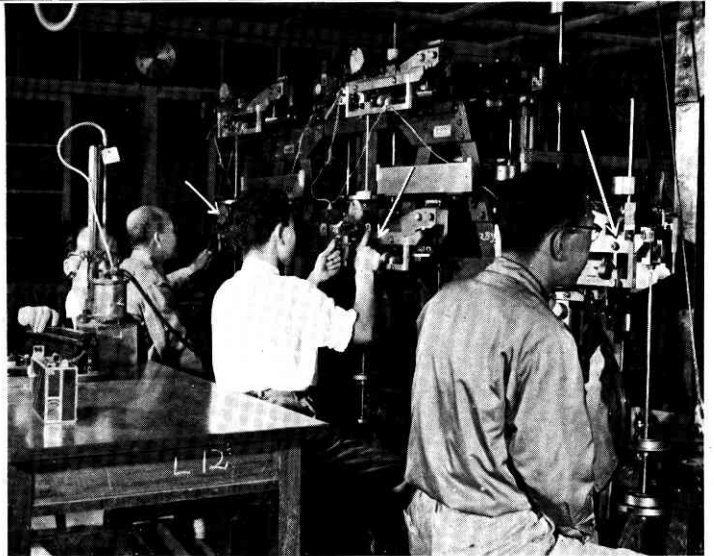


⇨ 3m 風洞における分力試験（航空研究所において）

ロケットが発射されるまでには地味な多くの試験が繰返される。

ここに掲げた風洞による試験もその一つで、安定に飛しようするロケットを設計するには欠くことのできないものである。

風向・風速計

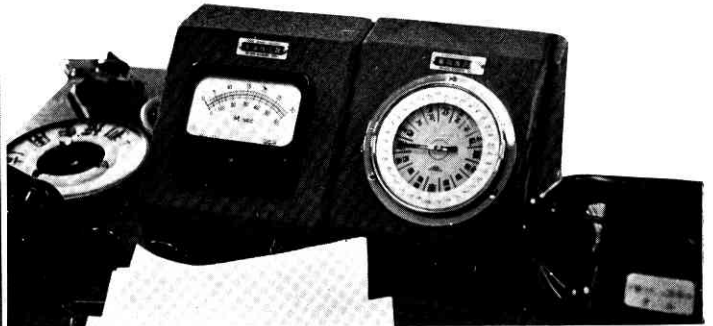


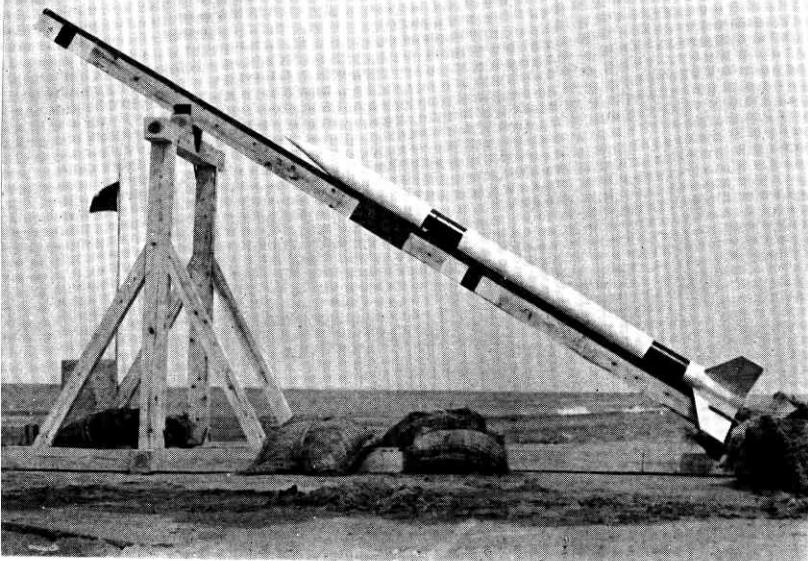
⇨ 天秤による計測（航空研究所において）

⇨ 秋田実験場にある風向、風速計

飛しよう当日は、ロケット発射のため風向、風速を詳細に検討する。

⇨ 風向、風速指示計器

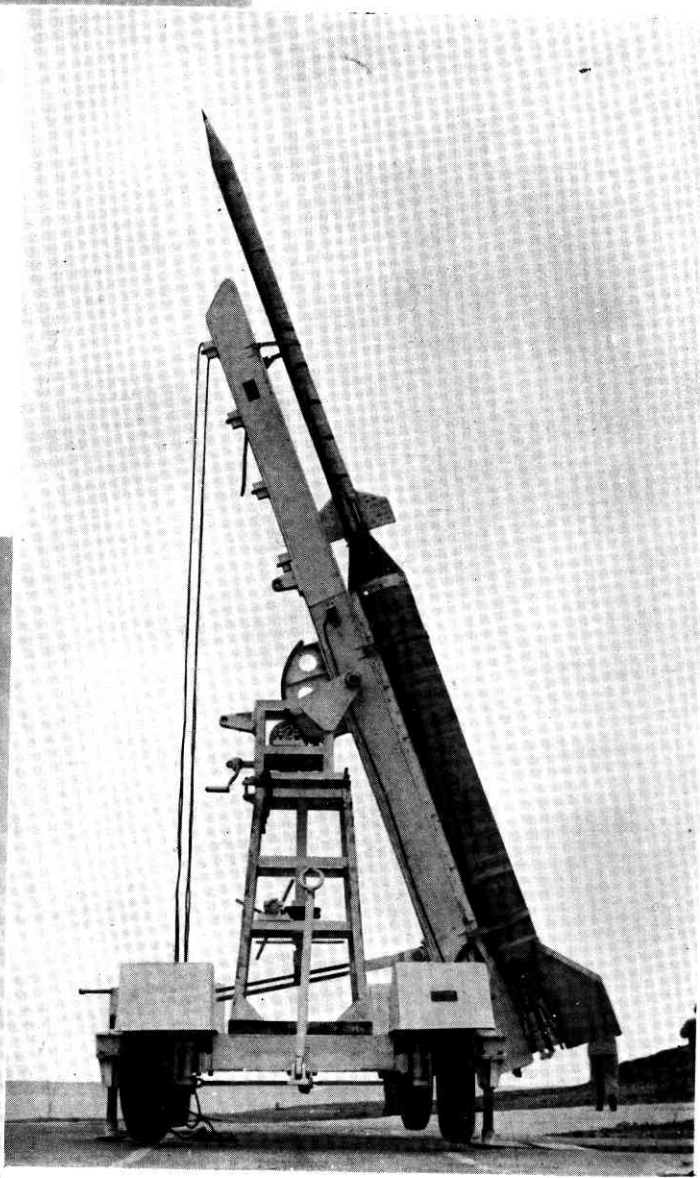




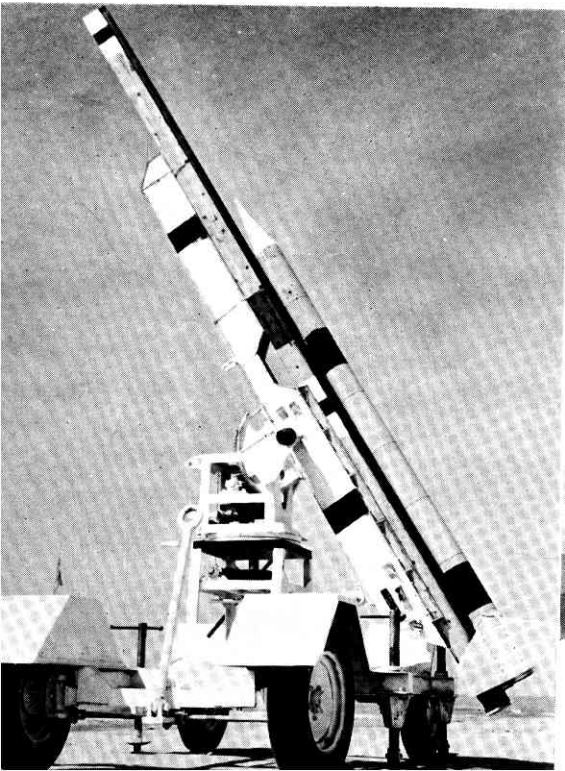
写真は、昭和32年9月から、同33年
ったうちから選んだもので、その間実験を
カッパ 122-AT型、カッパ

⇐ カッパ 122-S型機
昭和32年12月13日 1号機飛しょう
昭和33年2月10日 2号機飛しょう

カッパIV型1号機・ランチャー ⇨
昭和32年9月20日飛しょう
宇宙線計測器搭載



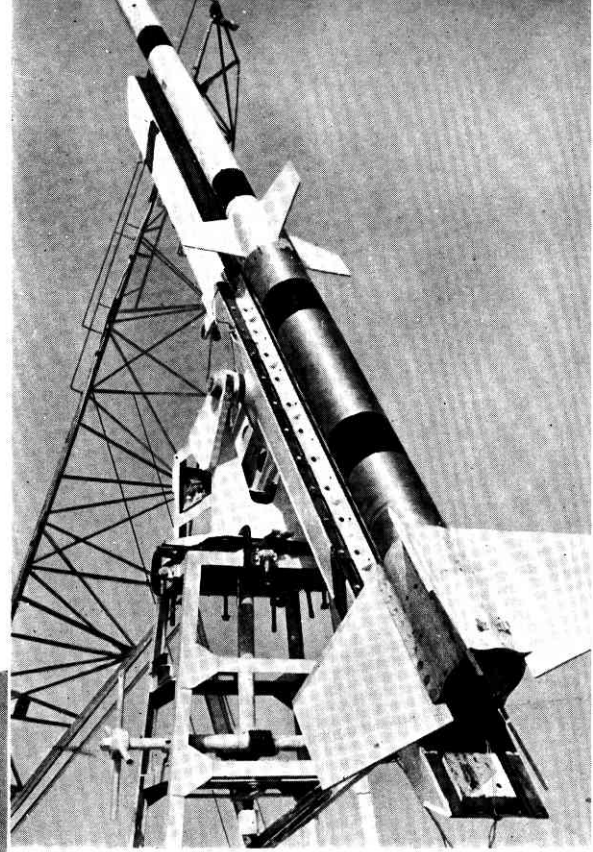
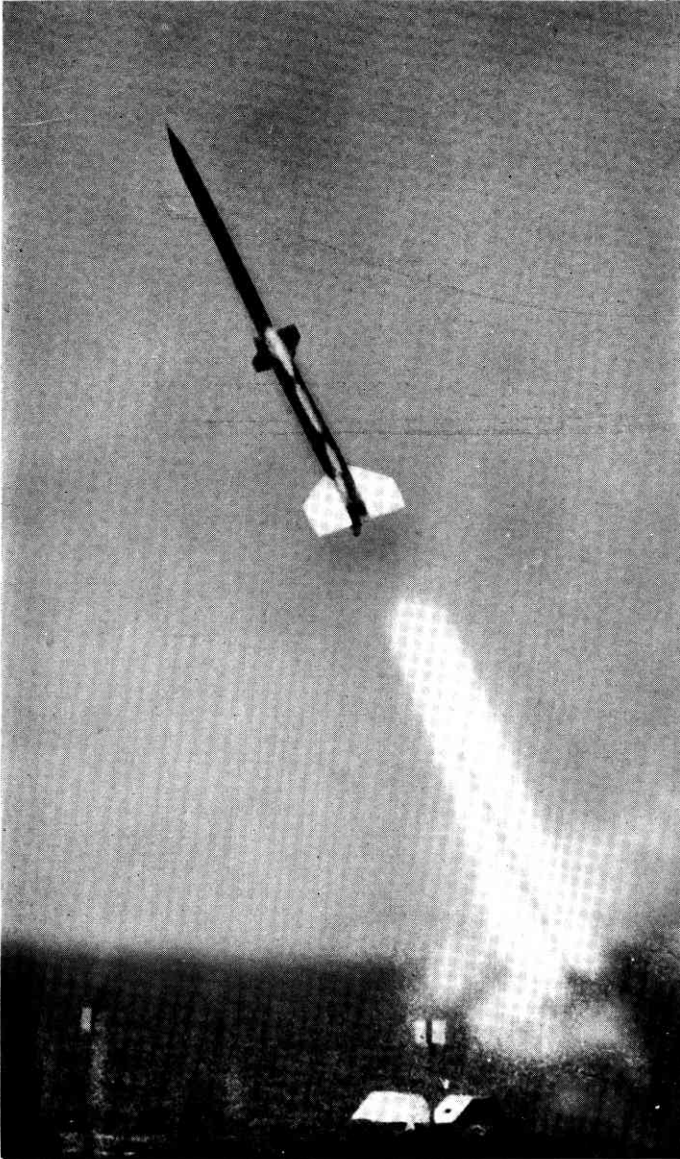
⇩ ランチャー上のカッパ 150-T機
昭和33年4月24日 飛しょう



ロケット

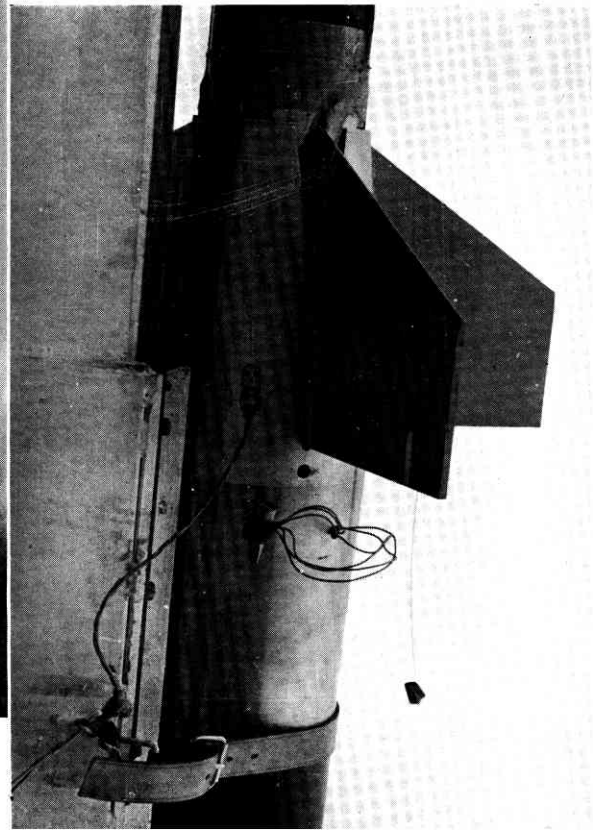
4月までに秋田実験場において飛しょう実験を行
行った機種は、カッパ IV型、カッパ 122-S型、
150-S型、T型、カッパV型の各種である。

カッパV型1号機およびランチャー ⇨
昭和33年4月29日 飛しょう

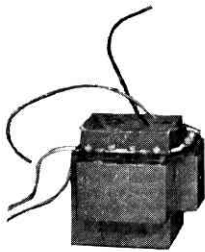


⇐ カッパV型1号機の発射瞬間

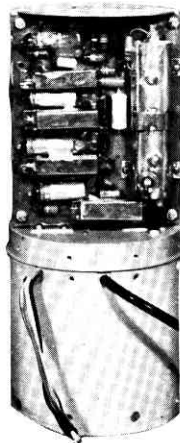
⇨ カッパV型2号機のメインおよび切断点火装置



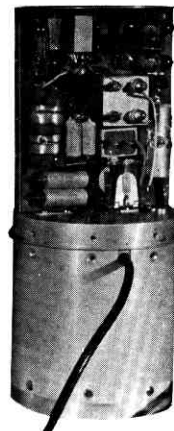
計測器



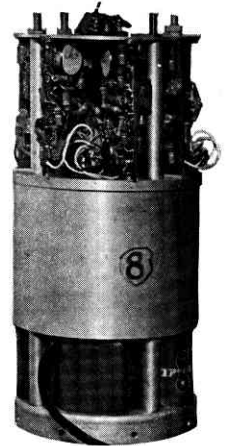
レーダ用電池



受信部

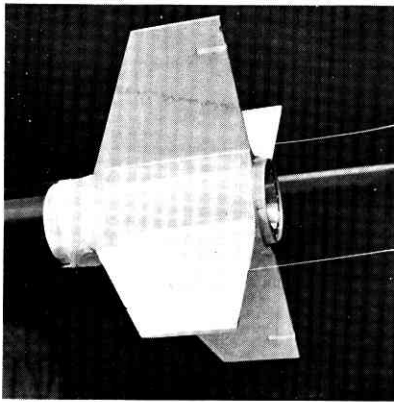


送信部

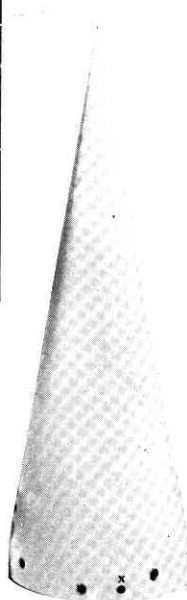
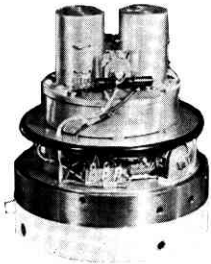


テレメータ改良器

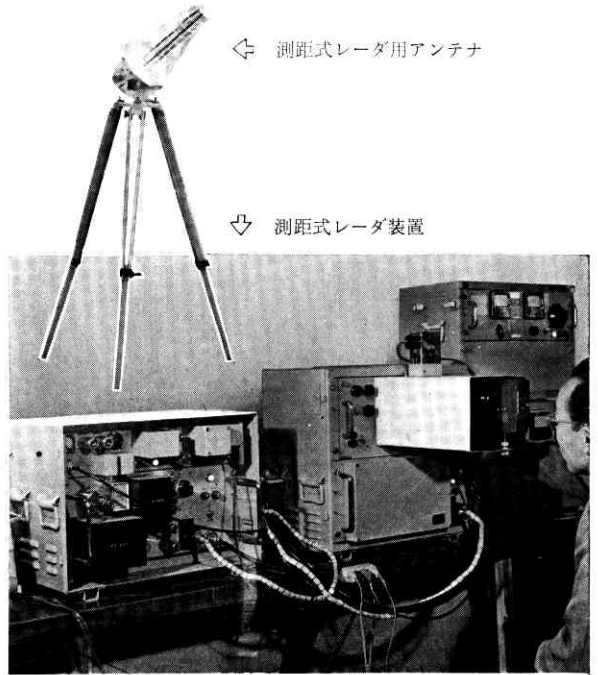
レーダ・トランスポンダ



尾翼アンテナの構造

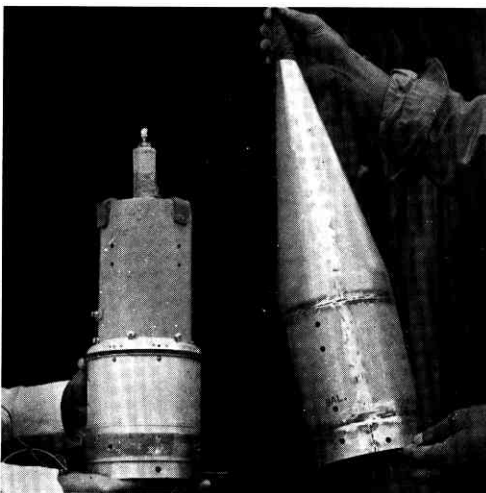


加速度計・振動計
とその掩蓋



測距式レーダ用アンテナ

測距式レーダ装置

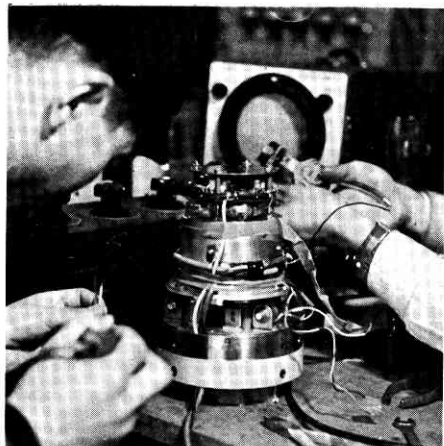


宇宙線計測器

その内部



発射前の作業状況



⤴ 温度計、加速度計の取付



⤴ 歪計の調整

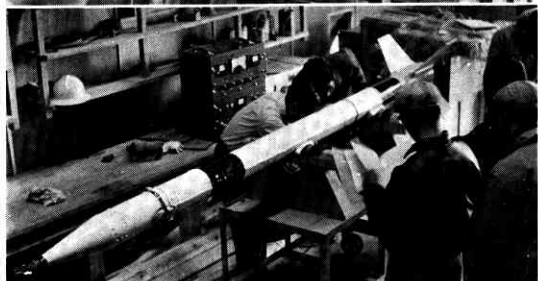
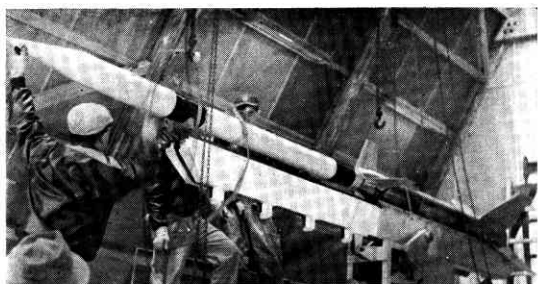
⤵ メイン・ロケットの調整



⤵ カップV型ロケットのランチャーセッティング

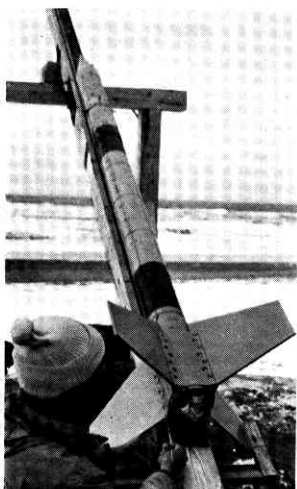


⤴ 追跡用カメラの追跡リハーサル



⤵ カップ・メイン・ロケットの振動測定

⤵ ランチャー上の122-AT 1号機

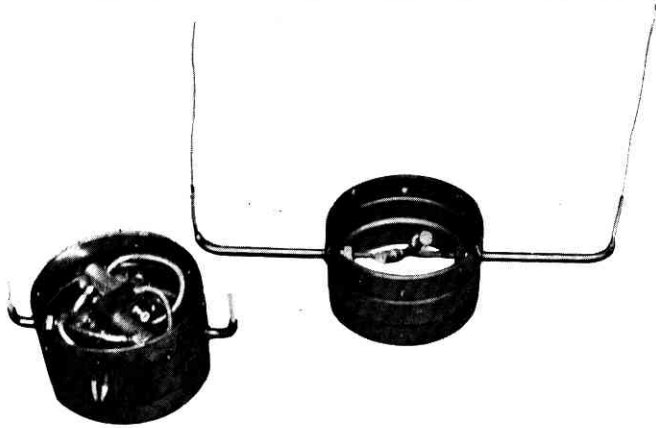


⤵ カップIV型機
宇宙線計測装置始動リハーサル

アンテナ・テスト機



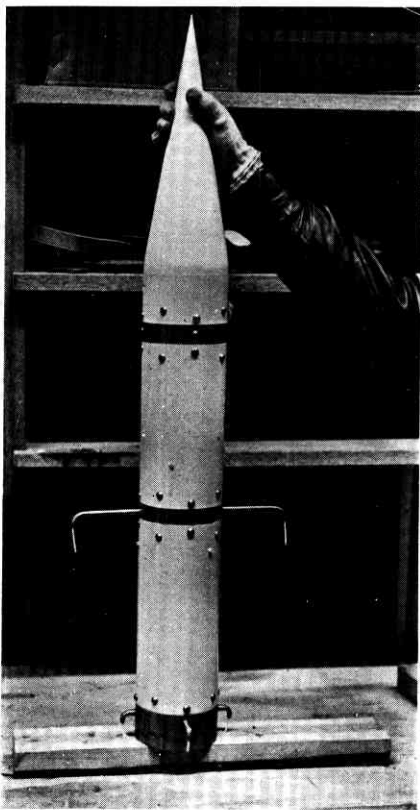
↑ カッパ 122-A T (アンテナ・テスト) 機の発射瞬間



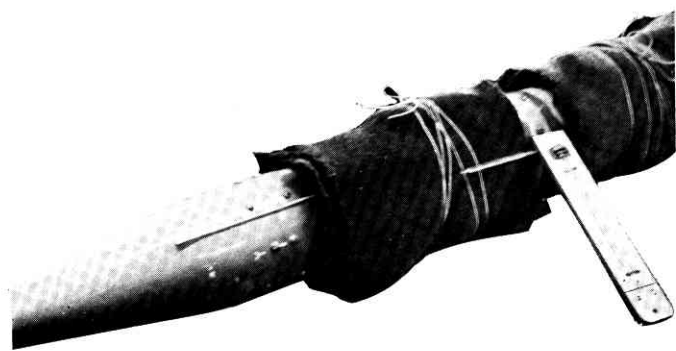
↑ アンテナ構造



← エレクトロニクス部



組付完了直前の2号機 ⇨



↑ エレクトロニクス部の保温状況